



武藏  
相模  
兩國巡察中見聞并探索書

1809





414  
A 570

巡察道順

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈



今般書御用東海道品川高ヨリ手始ノ大所河原也夫ヨリ神奈川  
横濱口保士ヶ谷ヨリ金澤横須賀也觀音崎ヨリ浦賀廻リ  
三浦岬也ヨリ鎌倉左藤澤也ヨリ大磯小田原藩竹根  
湯元ヨリ谷間イ通り峠へ出岫致へニ伊豆境下田街道  
門川ヨリ海岸通り再小田原へ出夫ヨリ足柄上郡加納浦山  
関本金子也巡察夫ヨリ秋野山中藩へ罷致也左巡察  
厚木ヨリ田村一宮也夫ヨリ戸塚宿河久和川并鶴間  
郷ヨリ小任田宿夫ヨリ高田岩川溝口ニ夕子館ヨリ青山  
街道夫ヨリ品川左目黒宿巡察内藤新宿ヨリ角筈  
柏木中野也ヨリ甲州街道高井戸布田五宿ヨリ稲毛宿



矢白押立大丸百草山巡左府中宿夫ヨリ国分寺村小金  
井玉川土手通武蔵野村々之内榎戸野中砂川山紫崎  
通玉川ヲ渡リ夫ヨリ日野ハ王子駒木野橋本通武相境  
小佛峯ハ出夫ヨリ相列津久手縣小原與瀬吉野閑野相  
甲ノ境川迄巡察夫ヨリ再小佛峠駒木野ヨリ寺方川口  
雨間山夫ヨリニ宮福生羽村玉川上水口ヲ見青梅ヨリ  
玉川々山通澤井迄夫ヨリ山谷ヲ歩テ秋夫郷下谷木ハ  
出妻坂峠ヨリ大宮山巡察寄居通ヨリ中山道深谷宿出  
夫ヨリ岡部陣屋ヨリ真鳥大塚山中瀬ヨリ利根川節妻  
沼田夫ヨリ四方寺下奈良山ヨリ忍藩巡察夫ヨリ熊谷宿ヨリ  
荒川々越ハ松山陣屋山ヨリ川越藩巡察所澤田無川又

最寄ヨリ浦和宿大宮門前大門嶋ヶ谷山ヨリ岩槻藩巡察  
夫ヨリ久喜加須町羽生山ヨリ向川山利根川縁之内嶋  
中領廻村権現堂ヨリ下総関宿境迄夫ヨリ七場幸手宿  
杉戸粕壁ヨリ新川堤通リ洪水ノ模様見分越ヶ谷宿  
草加宿夫ヨリ小宮縣界隈葛飾郡之内千住宿迄三人  
御用濟淨所仕矣



口田川縣

當縣知事仁愛深ク下民ノ聞ヘ穩ナリ役負力ヲ入レ下吏廻村  
イタシ察ニ過クルトモアルヤ村民繫ニタヘ世話ノヤキスルヤウニ心得ル  
モノ多シ畢竟所方ノ事情不馴ヨリ聊ノ聞ヘアル者モ召捕入  
牢又ニ囚入ナト數多クナリ断獄繫冗ヨリ自カラ粗漏ノ調ヘ  
トモナルヤ既ニ盜賊ノ惡事アル者召捕ヘ差出ケルカ如何申用キ  
ケルヤ出牢セシ者アルヨシ下民ノ嘲ヲ聞ク併近頃ハ捕込ノ躰  
定リ廻村ナト減シケルヨシ且比企郡ナトノ遠隔セシ村方ハ示シ  
方行届カサル所モアルヨシ

一 役負廻村賄代泊七百文益三百文ツノ人數ニ應ニ拂ヒケルヨシ



是ニテ當節ハ賄カケレ休泊ノ村方ニテ足シ賄スルユヘ申立ル事モ  
アラシ御定ノ雜用御渡ナレハ相對ノ賄ト同シホト拂ヒ下民ノ  
費ヲ省クヤウ急度ナク知事ヘ御移アリタシ

神奈川縣

一 當縣施政内外二局ニ分テ外事ハ不知内政ハ公事訴訟多ク  
官中所方不馴ノ役負長タルヨシニ何事モ交ニ弄下吏内ニ  
旧幕臣事馴ノ者ハ容易ニ口ヲ開キテハ不直賅ユヘ自然ト万事  
交定シカヌルヲモアルヨシ一人トシテ以テ受ル人ナク故ニ鎖ホノクニテ廻シ  
小印ヲ取揃ルユヘ其繁ニタヘス混雜ニ及ヒ公事訴訟ハ日間トリ  
川合ノ者多人數呼出日數ヲカヨリ無益ノ雜費多クナルヨシ當時  
入牢禁錮ノ者三百人ヨシ及フト云是民政ノ緊要カヲ入速カニ  
裁判アリタキナリ

一 公事訴訟裁判所ニテ吟味スヘキヲ先ツ町會所ト唱ヘ市在



廻役ノ者誥所ニテ召捕者ノミナラス都ラ一ト廻リハ裁判イテ其  
上ニ裁判所へ差出スルハ自然何トナク下方疑惑ヲ生シ又事  
ヨシ非分ノトモ自カラ出来スルヲモアルヨシ長官并関其任  
アラスト云々卷説アリ

一阿蘭陀五番上方ニテ多分金札買入し横濱、来船スト云

六月中旬横濱金札相場二割ヨリ二割半開キ上方ハ正金百両  
九百四十九両ト云横濱ノ商人密ニ外国人ノ品物代リ金札百両  
正金六十九両ヨリ七十両ニ買入ニスル者アルヨシ

一保土谷高十二文銭不通用ナリ神奈川高ニテ百文銭一文、文久  
ハ七ツ古四文銭ナラハセツト云札ヲ出シ四通クアリ廻役此ホ  
フニカラ入レタルト云

一横須賀異聞ナシ

一観音崎燈明臺番人ハ浦賀ヨリ二人ツ、出張スルヨシ

一鴨居村里人ノ話ニ横濱表カ、リ多テ難忍スト云

一程ヶ谷田ヨリ浦賀田ニテ田作殊ノ外不恒

一浦賀港ハ當時巡察試補吉田重次郎出役ス先役當春病死  
テ重次郎近頃出張スルヨシ故ニ役人ノ情未分明ト云港内ノ  
事務ハ重次郎ト鍋嶋藩ト立會テ取捌重キ事件ハ横濱へ

差出スヨシ此節町會所并改所ト唱へ場所取立水上ノ諸品ノ  
稅ヲ取始ムルヨシ旧幕ノ片ハナキヲ新法ニハ旧ヲ幕ノ情多シ  
一入港ノ米船金札ト正金ノ引合ニテ積戻シ多ク金ト札ト半々  
クナラハ高ヒ出来ルト云免角船手ハ札ヲ不好當時金札ノ



川合ニ高ト無ク故ニ港不景氣ト云當港金札相場二割  
チカイ上方モ同ト云

一 三浦岬辺金札通用浦賀ニ同ニ横濱ヨリ十三里アリ岬ニ  
此頃祭礼ノ節口論アリ少々手底ヲ負フ者アレト支配カ  
遠方大難費ニ夕ヘス故ニ双方内済ニスルト云

一 鎌倉鶴岡八幡江ノ島弁天トモ復飾ニ社領ホク御沙汰ナ  
ト云

一 大塔宮靈社松ヶ園東慶寺領地へ御造宮御出来ナレトモ  
未ツ御移徙ナシ當時村方へ御願ケト云

一 藤沢宿在辻堂村字カハ口橋へ當年二月二女位ノ女子ノ死  
骸流レカリアルヲ隣村久下戸村各主六左門川揚テ辻堂

村ノ除地へ葬ス六左門ノ妻墓参セシニ其夜彼女子六左門ノ枕  
上ニタナテ三ヶ年ノ間流行神ニナレト云是ヨリ種々ノ靈檢  
アルヨシ諸方へ聞ハ當五月上旬ニテ立願糸詣群集スト云  
右捨子ノ主ハ近村ノ博徒ナリ其妻夫ノ行方不知養育  
ニセヨリ川へ捨ルト云風聞アリ右捨子ノハ御法モアリ殊永没  
レムルナラン其実否御調アリタシ

一 藤沢宿商人金札不好縣ヨリ渡辺隼三郎取締出法ス諸色ハ  
金ト札トノ處ヲ見込カ高直ナリ

一 當五月十日戸塚宿ニ目升屋市年ト云米ヤ渡世ノ者方へ  
吉田町善三藏ナリ者見苦シク二歩金ヲ持参錢兩智ヲ申入レシ  
ヨリ彼是ノ喧嘩トナリ吉田町ヨリ戸塚本宿へ押掛双方立騒キ



大喧嘩トナリ手負ノ者不サヨシ是カタノ双方數日費シ漸クニ  
落着スルニ其後渡辺鉄三郎通り掛り取調ケルニ双方ヨリ内済  
申スルニ其儘ニ見通シケルニ右喧嘩内済其外雜費多キ  
ヨシナレト宿方入用ニテ済スト云右喧嘩ハ故アルヲテ其故ハ石塚宿  
傳馬所ハ是迄ハ本宿一ヶ月ニ二十日吉田町七日矢部三日トテ所ニ  
繼立来ルヲ今般御一新ニ方官ヨリ吉田矢部ノ両所能場ヲ廢セ  
ラレ本宿一ヶ所トナルヨシ是カタメ吉田矢部ノ旅店飯賣場茶ヤ  
ホ今日ノ口糊ヲ失ヒ難忍トナルニ本宿トハ歌籠ノ如クナルヨシ是レ  
遺恨ナリ今般御所ノ繼所廢セラレシハ故アルヲカ不知其第御調へ  
アリタシ

一 且柄上郡之内町屋村金札末夕不廻ト云テ不取觸ヲ問ニアリト云當所ヨリ

横濱ハ十三里アリト云十文字川辺ナリ

一 當縣支配相列津久井縣小佛峠林藤千木良村百姓治兵衛父茂兵衛  
ナル者當已ハ十九歳ニナルヨシナレト未夕差長老ノ典御沙汰ナシト云  
治兵衛孝行ナルヨシ右茂兵衛ハ佛峠道作リ川邊一ヶ年金六兩ニシテ  
川邊タラナルニ往來人ハ助勢ヲ乞ト云右茂兵衛差長老ノ典ニ洩ルマ  
否御調へアリタシ

一 小佛峠茶ヤ相列ヤ安善両方ハ當七月六日曉押込盜賊入金子十兩ヨ  
着類四十品ヨ盜去追午ヲ出セモ不知此辺回幕ノ如キハ列取締  
ナキニハ如斯ク出来又賊モ多ク博徒モ多シト云テ自ラ回サ茶ヤ  
情見エ津久井縣ノ内七ヶ村旧ノ如ク並山支配其餘ハ不殘神  
奈川支配トナルヨシ



一 稻毛領矢口村舟渡一人二百文上ノ宮渡一人二百文上ノ往來  
 人何レモ難渡ト云此等縣ニハ不知ナルヘシ  
 一 當縣後負廻村賄ノ酒飯料祿拂ト云六郷田ニテ開工

下総馬山藩

石子木町陣屋

馬山藩領分相列ニ一石アルヨシ當所陣屋代官一人出張スル此  
 厚木町ハ近郷ノ一都會ニテ寄場組合根取ス馬山藩代官ハ年  
 貢取立ト地下檢使ノ扱ヒニテ餘ハ都テ神奈川縣ノ施政ニ  
 從アリヌ又ハ石子木近江ノ願事何レモ取持リヨシ既ニ神奈川縣支  
 配所金田村妙願寺ハ東京歌舞妓役者ヲ呼ヒ追善ノ芝居興行  
 縣ハ願フ不許又改テ金田村鎮守神主ハ頼ニ奉礼神樂ト云各  
 目ニテ開濟ニナリ六月廿三日ヨリ始ムト云此願ナト何レモ厚木町  
 各主ヨリ願ミルヨシ厚木町ハ馬山領分ナカラ自今別年四月



六月ト雨度芝居興行神奈川縣ハ願立聞濟ニナルト云  
一相模川田鮎漢ノ税ヲトルヲ石子木町下組名主典左門  
神奈川縣ハ申立釣漢納漢鑑札ヲ出シ税銀ヲ取立  
ヨシ釣漢下ニテノ税ヲトリ神奈川縣ハ納ムト云テ下民ノ聞ヘ  
アルハ

小田原藩

當藩昨年減知ヨリ家中上下ノ差別ナク面扶持ノミ家中召使ヲ  
減シ各家産ヲ扁ヨシ士分上下福平均一人米四十俵ツニ定ムル  
説アリ當時執權參政中垣斎宮杉原平内向井田伊左衛門ホノヨシ  
是迄年貢諸運上出役シキヨシ今殺減知ニテ自然増取立ナト  
新法アラハ忽騷動及フト下民ノ苦情見ユ家中士氣薄ク何レ  
モ貨殖ヲ主トス事アルハ冷農セント心組スル者多ト云官府モ  
下地ハ内福ナルヨシト云昨午ノ一件ヨリ之波弊スト云既ニ當年  
ヨリ正立九月ト三度掛クル無盡購取立中分ヨリ以下ノ町人  
一度ニ内カケト云



- 一 小田原宿米金錢相場ノ権官府ニアリト云 領内金孔普通ナリ
- 一 大給縫殿額箱根七湯ノ内木賀ハ六月十三日より入湯スト云
- 一 箱根宿廢セラレ宿内極難法ノヨシ其間ハ所々ニアリ右宿へ是迄ハ宿場助勢金ト云テ年々千五百兩ツ、下ケ金アルヲ昨秋ヨリ御下ケナキヨシ村千五百兩ハ御貸附金ノ利足ト聞ユ
- 一 今般箱根廢者ニ分三嶋小田原ノ両宿ニテ持合タルニハ助郷ハ三嶋ハ十四万石小田原ハ十五万石ツトムヨシ両宿へ増助郷ノ分ヲ以箱根ハ如旧繼立命セラレ如何此儘捨置カハ實ニ一宿退轉ヨリ外ナキヨシ難法願立タクアレハ當宿ハ並山ト小田原ト分郷ノヨシニ免角不果ヨシ
- 一 箱根宿ハ旅店ノ外業ナキ宿ナレハ関門廢セラレ繼立ヲ廢セ

ラレケルニハ旅人ノ休泊減シケルヨリテ宿内人氣次第ニアミクナラシ  
既ニ六月十四日夜甚瀟士旅宿ニテ按摩ニ療治サセシニ寐間ヲ伺ヒ  
所持ノ胸乱ヲ掠ノ逐電シケルヨシ宿内ヲ諷フレハ知レサルヨシ加様  
ノ惡事ハ邊ニ生セント云

- 一 箱根山中遺刺一件ハ小田原ヨリ箱根へ人數ヲ出セシヨリ絶テナシト云

一 小田原近在田作不直



荻野山中藩

當藩領分山中近辺六ヶ村ナリシカ駿列豆列ノ領地代り山中最高ニテ  
十九ヶ村新領トナル先達ニハ新領者相訴ナトイタシ彼是ト甲  
立ヨシナレハ當藩ノ悉ク安堵シ是迄神奈川縣支配ニテ年迄ナ  
ルヲ近クノ領分トナリテ却テ悦フト云此頃政事至極穩ナルヨシ  
六月廿八日廿九日ニ村民ノ酒ヲ賜大凡百姓家一軒一升ト云  
執政キテ年學子全權ノヨシ又安西ノ宗公節ト云人京都ヨリ歸リ  
執政退役シ執次トナルヨシ此人アシキ人ニアラス何故退役スルヤト  
村民惜意ニシ上當藩下地不如意ナルヲ本家ヨリ役人來リ極法ニ  
シヨリ勝手直ルト云

韭山縣

當縣相列津久井縣七ヶ村ト武列多摩郡村々ノ支配ハ東京役所  
ニテ取扱ヨシ故ニ何レモ年遠ナル土地ニテ自カラ年迄ヒナレリ  
アラシ併村々依旧江川ヲ慕ヒ居ルナリ韭山支配ヨリ神奈川  
支配トナルモ韭山ヲ慕ヒケルナリ多摩郡兩間村ナトハ韭山  
神奈川品川ト一村ニ縣ノ令郷トナルアリ村民出入アレハ三方  
川合トナルユヘ其災ニタヘスト云

一 津久井縣吉野嶺小猿橋掛替ニ向ヒケルニ同嶺ニハ是迄飯盛  
女ナキヲ御濟アラハ新道ヲ開キ橋ハ土橋トシテ村方持ト  
スヘイトノ願濟ニテ谷間新道ヲ開此頃通行始ルヨシ



此道上下り甚々峻ナリ自然大雨アラハ必崩レシ跡宿関  
 野ノ人巨馬士難治ト云ナレト此頃ニ至リ調談トナルト云  
 一 豆刈アタミ博徒多ク居ルヨシ湯治人去テ相列湯河原へ来ル者多シ  
 又豆刈アキ峠ニテ男女二人殺害ニ逢フヨシ

安部橋津守領分

園部陣屋

一 當領内異聞ナシ平穏ナリ當時代官此月次原屋門在勤ス當所ハ  
 甚々在所ナレシ當主ハ三列榛原ヲ在所ト定メ家中モ川越ケルヨシ  
 一 此辺田作アミカラス

前橋藩

松山町陣屋

一 當陣や附高古石取捌是迄ハ年寄ト奉行トアレト當時奉行政名  
 判事松本要之助施政ス郡政所改各澤民所佐之勝六兵衛永寸  
 百吾横井民助輕部志之平租稅始ノ都テ取扱ト云陣屋諸家中  
 三百軒モアルヨシ先年川越ヨリ川越ケルヨシ  
 一 諸運上取立ノハ是迄ト増フナシ別任用金申渡アルハ割合出来  
 ス尤身元割ニテ出スト云  
 一 當領分諸運上聚斂クハ今般村替ニテ新領ノ村民ノ申立ニテ  
 旧来ノ領民ハ仕来通り納ムルト云更ニ心付カサル位ナリ



一 當領多摩郡澤井村最寄ニテ村青梅飯能込拾一ヶ付アリ  
孰シモ松山陣ヤ持テ澤井村最寄ハ見廻ノ者至テ質素尤躰  
ニテ折々来ルヨシナレバ更ニ村々ノ費ニテラアルヨシ時々廻ルニハ盜  
賊ノ患ヒキ博徒ナレト云又村々各主改正ニ當時ハ一村ニ人々  
人撰ニテ申付ルト云

一 前橋ニシテ銭札新製七月十二日前橋ヨリ松山所へ廻ルヨシナレトモ  
未夕通用ニテ下テスト云銭札ハ百文ヨリ二十貫文ニテノヨシ金札モ  
七ニ歩トモ来ト出来ノヨシナレバ未夕廻ラスト云

一 前橋ノ執政始後負惣力ヘノヨシナレト松山所ニテハ其故不分明  
一 當陣屋諸役人扶持市ノ半減シ領令ヨリ差出ス夫人モ半減シ  
追々改テキスルト聞ユ

忍小清

當藩君侯六月始ノ病死世子未ク家督ナシ中陰中ニカ城下ソ  
入口ニ番所アリ在所者ソ外鑑札ナキ者不入ト云エハ間道ヨリ  
入七月十日城下ニ泊市中ハ酒店高聲又ハ三弦ヲ聞ク  
夜分女子盆歌ヲウタヒナト平常ノ如ク又家中ハ川溪ヲ見ル  
更ニ中陰ノ躰ナシ漸翌十二日朝士分上下着交番出任スル者  
一 西人ヲ見ルノミ家中宗幕敷多シ市人患之既ニ家中ヨリ金  
札ノ大札ヲ持出シ市中ニテ買物ニ釣合ニテ折ルハ嚴敷申聞ラレ  
是ニハ差向速成云云商人ノ歎アリ當時執政山田大隅全權  
ノヨシ民政ハ伊藤九八郎外ニ佐久間某櫻井某ノ西人君侯



没後命セラレ可分ト云

一 昨年鎮將府ヲ建置シケル頃、差出カル、巡察使回村ノ節申渡ノ  
ニテ各當領内高札場ニカケ置ク上列ニモアルヨシ

一 當領熊谷宿問ヤ宿役人限りノ目論見ニテ熊谷最寄村々ヨリ  
賣ニ出ス野菜物一品ニ分二百文ツ、税ヲトルヲ始依之近御村々  
四十一ヶ村申合熊谷宿交易易賣買一切不致ト云取極ツナシケル  
ニ熊谷ノ高人是カタメ、困セ筋スト云近々熊谷ヨリ挨拶ノ一札ヲ  
入レ内濟ニスルヲラント云此事官ニハ不知ト云著アレト當節税ヲ取  
「諸藩ニアレハ空糶ニ但カシケルヲラント云モノアリ

一 田作算見別テ昨年皆無ノ場所一返ヨロシ

一 二朱一朱ノ領内通用ノ新札製造七月十二日下渡ニ十四日ヨリ通用

金高キ万五千兩ト云

川越藩

當藩領内諸職人ヲハナソ税銀申付在方ヨリ町市ハ附込炭榎  
木其外一駄ニ分銀六匁ツ、運上ヲ取遊女屋ヲ免シ一人ニ分一匁ツ、  
運上ヲ取又扇河岸船會所取尾山方ヨリ附出シノ材木其外  
荷物運上ヲ取立ツルヲ始ム會所ノ願人大塚新田名主久太郎ト  
云者ノヨシ

一 當春用金高百石ニ二十兩ツ、出金スト云城付高回四万八千石ノヨシ

一 當領内押込其外盜賊ヲ捕者一應吟味之上入牢一ヶ月ヨシ  
ナレハ領分境ニテ追放スル旧弊アリ近領ノ村民是レ患ル



ヲ聞ク早速ニ所置ノ宜キヲ御沙汰アリタシ

一 領内通用錢札新製五百文百文四十八文ト三區ノヨシキヲ通用ニ  
出ス城下南町高兵衛方ニ一兩ニ二百文ノ切貨ニテ川替ルト  
云

一 七月十三日大風雨家中破損多シ東京街道ニテ家中ノ屋敷潰家  
十五軒カラ木建ノ新家潰レ十軒ヲ見ル此辺當春火災ニテ  
新普請ナリ

一 田作宜ク殊ニ昨年皆無ノ場所一畝ヨリ見ユ

一 當時執政園田竹亭門松平直園田求馬町成瀧 成見坂口  
幸右エ門ナリ

山名鼻縣

當縣支配秩夫ノ博徒多ク又盜賊多ク屯集セシヨシニ六月ノ  
始召捕其外村々博徒ノ聞ハル者悉ク召捕ヘ山名鼻ヘ川取ル  
ヨシ村々盜賊締リ夜番アリケルカ六月ノ末ニテ止ミケリ別段  
支配村々ニ異聞ナシ役負最重ノヨシ下民ノ聞ヘ宜ク  
一 埼玉郡下奈良村吉田市右エ門ナル者良民ノヨシ縣ニテ大惣代ヲ命  
シケルト云此辺田作不直

一 深谷宿在大谷村辺青錢不通用ナリ金札ハ支ナシ  
一 先達テ山名郡ハ幡山ニ圍ニ牢アリケルヲ賊徒押寄セ番人ヲ殺害  
シ牢内ノ者川出ニ連レ行キケルヨシ



高崎藩

野大留村陣屋

當領川又所最寄高二千石ヨアルヨシ當時在勤高橋勘平  
ト云年貢取立ノミニテ施政向ハ都下品川縣ニ從ヒ盜賊其外都下  
同縣ハ差出ト云領内異聞ナシ

山石槻藩

當藩領内異情ナシ下民ノ聞ハ至極宜シク領方定メ年貢ノ外  
別段新規運上ホ~~ク~~聚斂ナシ領地高二万三千石ノ有高四万石ヨモ  
コシ今度書上ケテ年貢夜取調居ルヨシ當時執政ハ勝崎平大夫青木  
惣左門用人村瀬三郎左門上村百輔物从高田又左門目介平野

- 一 此頃強盜召捕大宮縣ヨリ之殿重廻リアリ當領内踏込召捕ル  
勢ト云ハ當藩ニモカテ入手配シケルヨシ
- 一 當藩士分ヨリ以下トモ禄ヲ三等ニ令テ平均ノ説アルモ未ダ割合  
極ラスト云
- 二 左門代官奉行由平野平八郎勝手吟味役清水隆助ホ施政スル  
ヨシ右ノ内平野平八郎ハ當藩ノ人ナリヨシニテ下民是ヲ褒賞ス



大宮縣

當縣陣屋場所未定當時同宿名主山七ニテ仮館ヲ建施政不  
陣屋建場所ヲ見分アリ浦和宿在又與野所或ハ別所村沼影  
村之内場所替ニナルト云未夕孰レモ不変ヨシ陣ヤ改ニナルヘキ  
村方ハ彼是トノ事情アルヨシ早ク至當ノ場所ヲ決定シテ民  
心ノ方向ヲ定ムルヤウニ御後アリタシ

一 知事至テ嚴重ニテ政勢異聞ナシ判照事其外捕込ノ節不刷  
ユヘカ召捕モアル節ハ多人數引率スルヨシ自カラ宿村入用多クナルト  
云聞アリ既ニ浦和宿ニテ賊高五郎召捕ノセツ多人數ニテ手配ス  
ト其故ハ當月四日夜三立郡代田宿村百姓冷セ方ハ押込盜賊

五人侵入金銀品物多ク其外十二文錢三拾貫文程盜取ニテ右冷セヨリ  
賊ノ跡ヲ分ケテハ浦和宿茶ヤ渡世板倉ヤ後家村方ハ持込  
長カカホ草草等ヲ入ル、ヲ見届其辰浦和宿役人、申出テレモ不果  
ニ當縣内訴ス仍之判事山縣小高村村田末藏遠心鍵吹吉田  
信一高稻葉勝之助出張捕込手配ノ者多人數呼集ノ翌五日益  
ハツ時右女賊方ハ踏込ケルニ高五郎居合ニ騷ノニキレニ右女賊ト  
無宿幸太高ノ兩人切捨ニナル即死なセ方ハ居合ノ無宿福太高  
太高吉ノ兩人手負ニテ召捕ラル右場所ヨリ遁去者なセ内実夫  
新太高下迄モ宿吉五郎中尾村無宿渡次高三人者遁去ル  
右遺恨アルニハ浦和宿ハ火ツカケ又ハ手先ノ者切込ハナトノ風聞  
アルニハ縣ヨリ出張ニ多人數呼集ノ一夜米田ホニテ宿内騷動無謂



旅宿せし、吟味ツヨシ右呂楠ノセツノ人数三百人ニモ及フト云前各  
 切切推ノ節ニモハカリノ子供背負ケルカ是モ手底負ケルヨシ  
 一 聴訟断獄方脇坂園蔵丸山関之蔵ノ兩人ニテ支配村々名主ノ多人  
 數アリケルヲ改正ス是ニカク入レケルヨシ聞ヘリ然レニ右園蔵廻村  
 之節諸願申出ヲ取用ヒ相手方利分アリ氏ノ廢諸ニテ押付不伏ノ  
 者ハ手荒ラナル所置スルト云説アリ又園蔵榎川名主遊庵ハ風潮  
 アシト云者アリ右ハ名主之門己カ役免ノ不服ヨリノ讒ナラガト察ス  
 実否不知ハ知事ハ心得ニ何トナク御舎ノアリタシ  
 一 當縣養老ノ典未タナシト云如何  
 一 役負廻村賄泊銀ハ又五分金三朱ヲ拂ヒ通ルヨシ  
 一 當月中旬錢相場金一兩錢拾貫文ト一般御定トナルヨシ當縣

支配所村々ヨリ額立出方ハ貫六百文ニ聞濟ケルヨシ一般ノ御定ヨリ  
 縣限リ聞濟ケルハ他縣ノ石村ニテハ己カ支配役所ノ不行届ト云  
 テ怨嗟スルヲ聞ク其節御調ヘアリテ一般ニナルヤウ御移アリタシ  
 一 當縣管内 埼玉郡鷲宮村高三百九十石ヨリ同村鷲宮神領曰幕糸印  
 地ノヨシ神主大内兵庫此一村支配ニ同所高札ノ末ニ兵庫ト云各記シアリ  
 縣ヨリハ何モキ不入ヨシミテ下民困窮スルヨシ右社領糸印地ハ最寄  
 府縣ノ支配スヘキナレハ縣ハ御移リアリテ兵庫ノ文字ヲ削リ都テ  
 施政ヲ命セラレ可然カ



葛飾縣

當縣武藏國葛飾郡支那村々異聞ナレ知事ノ聞ハ宜ク下吏ノ  
 聞ヘモ宜シ今般水害村々多ク新川堤ヨリ東南一回大海ノ如ク  
 民家屋根端ヲ水ニヒタシ海中ノ孤島ノ如ク是工縣ヨリ役負廻村ニ  
 ケルヨリ連年ノ水害實ニ可憐ノ至ナリ當座キ當ハ縣ノ見止  
 與フヘシ何分ニモ厚ク御撫恤ノ御沙汰アリクニ権現堂村水害  
 定抗化三午年七月大風雨洪水ハ合四夕當七月洪水九合一々地  
 関宿ニテハ午年ヨリ一尺ヨリ高水ト云

一當縣下流山陣ヤ、當月六日腕左ノ者多人數押込有合ノ  
 金不殘奪取金札ハ下水ノ投入レ立去ルト云々卷説アリ

小工官縣

當縣陣屋未定當時日村錢座跡ニ建乃ニテ施政ス支配所取締  
 トニテ草加宿子住宿下流國松戸宿同行徳村都合四ヶ所、出張  
 所補理所屬下吏ノ内一ヶ所ハ兩人ツ、詰合最寄惡黨捕込子取  
 元乳虎隊ノ者召抱子住宿ニ詰合セ怪シキ者差押ヘケルヨリ尤出張  
 ノ役負手賄ニテ宿入用ナシ下民是ヲ悦フ

一知事温淳ノヨリ政勢正ニキヨリ附屬ニ至ルニテ異聞ナシ支配中治方  
 宜クト聞工役負不所業ノ者アハ速ニ役免ス當春以來四五人アハ  
 此頃附屬下吏ノ内拾人役免ス其故不知

一旧幕ノ節道案内ト唱ル者二十人捕込方附屬トシ一月一人五兩



月給ヲ與ヘ召捕方其外ハ遣ケルヨシ此月給支配村々高割ニテ  
出金サセケルヨシ又支配所限組合ヲ立寄セ場ヲ定メケルヨシ村民  
ニテハ新規ノヤウニ言世話ヤキスルナトノ訓ハアレヒ悪キコトニアラスト  
寄ス行徳最寄ニテハ免角改属ノ者旧幕因循ノ風ニ泥ムト云ヨ  
ナレヒ後ト取留事件聞ヘス

一 後負廻村賄泊銀拾久益金ニ来ツ其時々掃口直見村々  
是ニ賄ナシト云テ悦フヲ聞ク

利根川助堤防一件

下総国首飾郡関宿津関所臺並捧出ツル時江戸川口東西  
棒出ト唱ヘ替ニナリ當春以来第一ノ津普請所ナリ右津普請  
受負ノ者江戸町名主源次郎ナルカ実ハ不馴ユハ定例下請負  
其臺町名主太常右エ門へ任セ津普請金ノ内ニ割ツ源次郎ハ渡  
大常右エ門キニテ津普請悉ク仕上ケ種々ノ工夫ヲ以テテ  
輕ニ仕上クルニ何レモ保子方不直大水ノ節忽破損スルナリ既  
當春モ右ノ惡例ヲ以テ掛リ津普請仕様々庶未ノ旨ヲ以テ圍橋  
團助ニ見知ナシ請負者源次郎ノ殿敷察當田ニテ領主ハ  
川渡トナリ入牢其後宥免ノ上名主取揚事済ムヨシ



一 下総国金杉村御普請ハ分通仕上ケルヲ仕立戸又直ト云テ皆仕直ニ申付ルヨシ

一 同国野田組合十九ヶ村御普請モ同様ニテ右請負人名主四人召捕ヘ氏部官ハ差出シケルヨシ

一 武列村々御普請モ同様ニテ園橋團助時々見廻リ出取重沙汰ニテ數度仕直ニ申付ルニ一同忍縮ニテ當春ノ御普請誠ニ正路ノ仕上ケ方ニ出来ヨシイツモ大水ニ殊ノ外切所出来スルヲ此度ハ念入ニ八合九合ノ大水ナレト棒出御普請始一切破損ナク大丈夫ナルヨシ故ニ正路ニ御普請出来ノ村々ハ小前ホ々ニテ一同相控フヨシ保請負元各主ハ出取重ノ所置ニ其身不勝手ヨリシテ自然ト忍ビサレニ申フラスハモアラシト云サ聞ク

一 武列葛飾郡女場村ニテ當春利根川通御普請悉ク御取重ニテ大丈夫ニ出来難有ト云ハ表向ニテ實ハ度々仕直ニ仰セ付ラレ右入用ハ村役人損分イタシケル場所モアリ又村入用ニ掛ケケル場所モアリ川下宝珠花田ニテハ身元ノ者ハ冥加トシテ出金申付ラレシモアリ内實難混スト苦情ヲ唱ルヲ聞ク

一 園橋團助ノ出取重ニ取計フニ請負人共諛訴モアラシカ普請ノ仕直ハ取掛ラサル前ニ請負人ハ説得ニ過クサレヤウ未然ニ忍意ヲ断セタレ其始ヲ寃ニテ仕上ノ頃ニ取重ナルヲアラハ己カ所置ノ悪キヲ忘レ却テ怨ムルヲ怨ムルヲ多カラシ前条ノ女場村ノ聞入ノ如ク難混ナルモアラシ此辺土木司ハ心得ニ無急度御移アリテ可然カ



一 嶋中領向川旦領ホ土木司ノ恩託ナシ殊成嚴重ニテ賄ナト所ノ  
 青物ニ限リ尤回幕之節下々札モノ足賄或ハ休茶代ホノ恩  
 弊一切ナシト云又羽生領ハ七十々村評議ニテ組合村之内人撰  
 改正惣代ナル者五人ヲ定メ諸事取計ハセケルヨシ川附村々ニテハ  
 取極不伏ナルモアルヨシ而普請ハ嚴重ニナリ彼是ノ入用ハ減シ  
 改正惣代取極ルニ種々ト申觸ス者アラト云併小前末々ニテ  
 三ノ今般ノ少類ニ難有心得ハ居ルヨシ聞ユ右村々ニテ奥加トシテ  
 出張中需用小遣ニ水夫一人ツ、差出スヨシ  
 一 土木司出張賄泊銀ハ夕五分益金ニ乗ツ拂ヒ通ルヨシニ聊  
 足賄ハナシト云

玉川節堤防一件

當己三月武列多摩郡押立村御普請所本瀬出シ堤長サ三ノ間  
 平均ト云場所沉積ハ組出シ梓水ノ深サヨリ梓ノ下、四方ハ貫通  
 ニアルト下タヨリ一尺程ツ、切右ヲ捨置ケテ宮繕方見分セリ  
 佐藤桃太郎ニ見答ラレ全ク人足共ノ仕事ニ役人共存セス候申  
 立シト聞入レナク重立各主平吉定右門ノ兩人ハ恐レ道々ハ六代ノ  
 若太常兵衛政右門罷出兩人トモ繩舟ニテ東京ハ差戻リニナリ  
 入牢ス六月三日御呼出テ兩人トモ出牢ス各主平吉定右門ハ  
 其節村頭ケニナル末ヨリ于今御沙汰ナシト云右一件御勘弁  
 トナル手續ハ元一橋家承因本三十席ト云者久世家ノ家臣カ当  
 時神奈川ニ居ルヨシ此三十席第一大澤浪五席ト云者アリ右浪五席  
 之妻ハ玉川向ニテ落川村字河内ニテ又次席ノ逆者ノ白シ此手續



ニテ事柄手輕ク済ムト云右換巧ニ金子ハサモ出サス頼入ノセツセ之  
辺ニテ料理茶ヤ、五六人相集リ浪五郎ヨリ外役人、相断シ丈ニテ  
一同承知イタシ無程事済トナルト云右頼入ノ役人名不知官中ノ  
人ナラカ右ノ外玉川竹節而普請異聞ナシ  
一玉川上水口而普請異聞ナシ

甲斐所管轄中風聞

當七月朔日甲別都留郡上野原宿市日ニテ高人集リ賣買ヲ  
始メケルニ同郡谷村陣ヤヨリ長谷川藤吉ト云者出役ノ同人家來  
同宿役人三人召陣シ高人所持ノ正金ト金九トノ負數ヲ及ノ正金  
見本トシテ二分金ニツツ願リ甲斐府へ送り高人共ハ茲宿ニ北へ  
居レト申渡アリ右ハ谷村近辺ニテ悪金多分アリ元込ニ難混申立

彼是混雜ト竟ニ出訴トナルヲアルヨシ是等ノノヨリ調ルヲカト云信列  
高人甲列へ入り悪金ニテ錢ヲ多分買フ者アリ四五人モ入牢セシメ  
右ニ五分金差出高人二十五人ナリ

下総国関宿藩風聞

當藩先代昨年脱走セシキ召陣ノ家来ト居殘ル家来ト家中  
ニツ割シ殊ノ外差纏シ右故政事向不行届ノヨシ當六月中  
昨年脱走ノ家老杉山何某東京ヨリ帰国ノセリ途中武列  
葛飾郡女場村敷蔭ヨリ侍三四人出テ切害ニ首ヲ取り  
東京同藩二屋敷へ訴へ出ケルヨシ當時家中探合室後三四  
軒閉門申付アルヨシ







